

第22回 とよおかニューイヤーマラソン



1月1日(木)



第780号
 発行人 ● 豊丘村公民館
 館長 市澤和宏
 編集人 ● 長野県下伊那郡
 豊丘村公民館報
 編集委員会
 0265-35-9066
 印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
 (2月1日現在 ※外国人を含む)
 男 3,232人
 女 3,224人
 総人口 6,456人
 世帯数 2,267戸

新春の豊丘村を駆け抜ける ~好天の下、3・5・10kmの部に146名~



中学生ボランティア

二〇二六年元旦「初晴れの下」とよおかニューイヤーマラソン」が開催されました。豊丘村内はもとより、遠くは東京からも参加があり、過去最多の百四十六名が快走しました。中学生ボランティアを含めた十六名の運営スタッフも尽力。年々参加者が増えており、新年を彩る村の恒例行事として賑わいをみせています。

ソンは、三キロ、五キロ、十キロの部があり、自分で走るきよ分を決めることができます。ぼくは昨年まで三キロの部を走っていましたが、今年はずっと五キロの部を走りました。

初めての五キロ
 南小学校五年
 大倉 煌月

元旦に、第二十二回とよおかニューイヤーマラソンが行われました。このマラソンは、十時にスタートのピストルが鳴りました。ぼくは



後の方からスタートし、ゆっくり走り出し、役場を出発して、北へ向かいました。五キロのおり返し地点は、りんごっこ公園を過ぎたあたりでした。コースはアップダウンがあり、きつかったけど、最後まで走り切ることができました。そして走り終わった後は、たくさんのお景品が置いてあり、この中から一つだけ、好きな景品をもらえました。ぼくは、そのうちの一つであるそばを選びました。

冬になるとどこにでも見られる柿の実。自分にとってこの風景はとても絵になる風景となっている。が、ニューイヤーでは熊が里まで下りてきてリンゴや柿を食べるのである。原因は山に食べ物となるドングリが不作のため、防護柵を乗り越え畑をうろつくというのだ。熊は冬眠のためお腹いっぱいになれば、必ず冬眠すると思っていたが、柿という食物が豊富であれば冬眠をしないで冬を越すそう。だ。里をうろつけば人間と遭遇する、びっくりして危害を与える。昨年の被害状況は死者も含め過去最大となったのだらう。

段立

農家の収穫する手が足りないこの柿を残さないようにしようと、信大農学部が協力を。収穫されない熟す寸前の柿の実を各グループに分けて、もぎ取る競技が行われたこともあったと聞いています。山に近い場所の柿の木は特に被害が多く、安心して外に出るのもできない日々が続いたことだらう。



12月にかけて収穫されなかった柿の実が残り柿となって青空に映える

令和七年度さんかくセミナーは住みよい村づくり研究会と共催し、村内外より五十名近くの皆様に参加いただき有意義な体験ゲームを開催することができました。



講師を日本赤十字社長野県支部防災教育事業指導者の皆様にお願いし、体験談を交え、避難所に来て安心と思いきや人的被害にあらなど実例をあげ様々な問題や運営の難しさを説明されました。

体験ゲームでは班分けを

第22回さんかくセミナー 12月13日(土)開催 避難所体験ゲームをやってみよう!

男女共同参画推進委員会委員長 宮下朋晃



し、避難された方の立場や性別または状態などを考慮して、部屋の割り当てを同じ内容で二回繰り返します。学校を避難場所と想定し、避難者の状況を書いたカードの配置を班のリーダーを中心に意見を出し合ひ決めていきます。どの部屋への配置が適切で正しいのかは分かりません。初回の終了後に各班の配置割りを見て自分

今回の終了後、



今回はテーブル上の体験でしたが、実際の避難所の設備や部署の責任者を確認し訓練して備えていくことも大切なことだと思いまし

税についての作文 入賞作品

関東信越国税局
管内納税貯蓄組
合連合会長賞

豊丘中学校三年
関書館と私と税金

壬生 蒼空

られている。税金という
と、「取られるもの」「面倒
なもの」「絶対に納めなきゃ
いけないもの」といったマ
イナスのイメージがあっ
た。けれど、図書館のよう
に、誰かの人生を支え、さ
らに豊かにし、良い変化を
するために使われていると
いうことが分かって、私の
考え方やイメージは大きく
変わった。

税金は、図書館だけでは
なく、学校や病院、道路や消
防などの、私たちの生活の
ありとあらゆる場面、場所
で常に使われ、役立てられ
ている。私たちの毎日通っ
ている学校も、使っている
教科書も、食べている給食
も、税金によって支えられ
ている。体調が悪くなった
りしたら行く病院も、普段
使う通学路の道路も、その
修理も、火事が起きたりす
れば通報する消防も。それ
らに関わる人たちの給料な
ども。つまり、私たちが学
び、成長し、安全に暮らす
ための環境には、社会全体
の大きな支えがあるとい
うことよって成り立ってい
るのだ。

私は本が大好きだ。物語
の世界に入り込むと、現実
の悩みや不安を忘れさせて
くれるから。悲しいときも、
嬉しいときも、どんなとき
にも本は私の心を支え、豊
かにしてくれた。そんな私
にとって、図書館はまるで
宝箱のような場所だ。新し
い本も、古い名作も、分厚
い辞典も、すべてが自由に
読むことができる。けれど、
ある日ふと疑問に思った。
「どうして、こんなにまた
くさんの本が誰でも無料で
読めるんだろう？」と。
調べてみると、図書館の
運営には税金が使われてい
るということが分かった。
建物の維持費、職員さんた
ちの給料、本の購入費など、
すべてが税金によって支え

と思っていた。そして、
いつか働くようになって、
税金を納めるようになって
ら、図書館の本棚に並ぶ
たった一冊の本のように、
誰かに心の支えや応援を届
けたり、豊かさの一部や変
化の一つになったりしたら
とてもいいことだと思っ
た。

豊丘村租税教育
推進協議会長賞

税金と自然

青塚 羽琴

私は最近、ニュースで「地
球温暖化」「プラスチック
ごみ問題」など環境につ
いての話をよく耳にします。
「猛暑」や「集中豪雨」とい
う言葉を聞かない日はない
くらいです。こうした問題を
解決するために私たちの生
活の中で使われているのが
環境のための税金です。

その一つに「森林環境
税」があります。日本の国
土の約七割は森林ですが林
業をやる人が減り、森の手
入れが十分にできていま
せん。森があれば土砂の危
険や二酸化炭素を吸収する
こともできなくなったりし
ます。森林環境税は、そう
いった森を整備するために
役立てられています。私
たちがおさめる税が森を守
り未来につながるのだと思
うととても大切なものに感
じます。

私はたくさんのことを学
び、様々な経験をし、いろ
いろな知識を得ることがで
きた。家族、友人、クラス
メイトなどの人の気持ちを
考えて動くこと、今までの
日本や世界の歴史を知るこ
と、そして自分自身のこと
について知ること。それは、
税金によって支えられ、得
られた学び、知識だった。
これから、私は、税金を
「誰かの未来を支え、豊か
にさせ、変えていく力」だ

くしました。父から森は水
をきれいにして動物たちの
すみかになると教えてもら
いました。今になって森林
環境税を知り、あのときに
した父の手伝いで社会全体
で森を守ろうとする取りく
みとつながっているのだと
感じました。

また、環境税は森林だけ
でなく、地球温暖化対策に
もつかわれています。「地
球温暖化対策税」というも
のがあり、石油やガソリン
を使うときに少し上乗せさ
れます。そのお金は再生可
能エネルギーの利用や省エ
ネの設備に役立っています。
ふだんの生活では直接
は感じませんが長い目で見
れば私たちの未来を守るた
めに必要なしくみだと思
います。

私は環境問題について学
ぶ中で、「便利な生活を続
けながら自然を守ることは
できないのか。」と考える
ようになりまし。税はそ
の答えの一つです。みんな
で少しずつ負担しあいその
お金を森や地球のために使
えば次の世代にきれいな環
境を残すことができます。
もし税がなかったら、森の
整備も温暖化対策も進ま
なくなってしまうと思いま
す。もちろん税の使い道が本
当に正しいかどうかを見守
ることも大切です。無駄に
使われていないか、必要な
ところに届いているかを考
える必要があります。私
たち中学生はまだ税をおさ
めませんが社会の一員とし
て関心をもちつづけること
ができます。ニュースや授業
で学んだことも大事だと思
います。

私は将来働いて税をおさ
める立場になったら、自分
の税が環境を守ることに役
立っていると思われよう
にしたいです。そして、森
や自然の恵みを次の世代に
残せる社会にしたいです。



私は一人では生きていけない。他者の
存在があつて初めて気づかされること
が少なくない。高校卒業後の十八歳の春、
僕は飯田線市田駅から東京に向かった。
当時は六時間ほどかかり新宿駅に到着
したのだが、いまでも窓外の西口の看板
の風景が記憶の中にある。

夢見た遠か地平線
その33 豊丘村に戻りわが人生を
振り返りつつある日々
北市場 福澤郁文

美術大学受験を目指して浪人生活が始
まる。美術予備校に通いながらアルバイ
トで生活費を稼ぎ、友人二人とのアパー
ト六畳間の貧乏暮らしから始まった。
美大に入学後は正規の授業を受けられ
たのは一年半あまりだった。当時、吹き
荒れた大学紛争の時代、学園の民主化闘
争のなかに、僕も巻き込まれていった。
美学や美術史、そしてデザインの基礎実
習は夢のような時間だったのではあるが、
その後、二年あまり続いていく「闘争」
のなかで、大学教授陣との対立からクラ
スでの討論のなかで、僕はひとり一人の
考えていることがこれほどまでに異なる
ものかと、驚きを感じたことはなかった
ように振り返る。

中学校
スイミング施設
での授業
が始まる

豊丘中学校では、水泳の
授業を十一月一日から行
いました。学校プール施設
での授業を実施していくに
あたり、プールの水漏れや
プールサイドのシート張替
えなど、施設の修繕箇所が
多数見つかり多額の費用を
必要とすることから、今年

度から飯田市の㈱アイスク
さんにご協力いただき、高
森町のスイミングプール施
設を利用して水泳授業を実
施することとなりました。
施設を利用する授業
は、天候に左右されず実施
できること、水泳の技術指
導に協力いただけることな
どの利点があります。現
在、飯田市の児童生徒の
四十五%がスイミング施設
を利用し、その他の町村の
学校も利用しています。ど
この学校も、プール設備の

老朽化により、スイミング
施設利用をしているとのこ
とでした。GW明けから
十一月まで既に施設利用の
学校が割り振られており、
豊丘中学校は初めての利用
のため、十二月のプール授
業となりました。
スイミング施設では、泳
力に合わせたクラス分け指
導があり、学校体育科教師
は、生徒の安全確保と評価
に注力することができ、生
徒は時間いっぱい泳ぐこと
ができました。生徒からも

「水泳はあまり得意ではな
いけれど、コーチのアドバ
イスを聞いて改善して泳ぐ
ことができた」「学校での
水泳の時間よりもたくさん
の距離を泳ぐことができた
り、専門のコーチのもとで
いろいろなコツなどを学ぶ
ことができた」と感じられま
した。インフルエンザの流行
時期であることから、欠席
する生徒もあり、実施時期
の課題は残りまりました。
(教育委員会)

挫折というものだったのか...
大学卒業後、小さなデザイン事務所に
就職したものの一年ともたず、独立戦争
直後の新生国バングラデシュに復興ボラ
ンティアとして渡ったことが、人生を変
えた。私自身のなかに、その体験は大き
いものであったと振り返る。
戦争の傷跡は、破壊された建物とか、
港湾に撃沈されたタンカー、戦車の残骸
など目に見えるものではなく、人びとの
暮らしの中に見えてきた『貧困』の厳し
さであったのだ。僅か四ヶ月の任務を終
えて帰国してからも、自分の心の中に深
く沈殿したもののようになっていった。

デザインもNGOの道も厳しかった
帰国後のどん底に近い生活状況はあつ
たが、デザイナーとして身を立っていか
うという気持は変わらなかつたのだ。
個人経営の恩師について技術や仕事を
学んだ。なにもない時代に結婚し、NGO
ヘルプ・バングラデシュ・コミュニティの行
動を起こしていった。活動の展望はなに
も見出せなかつた。人生を暗闇のなかに
追い込んだようでもあつたが、その未来
に僅かな光を見ていたのかもしれない。
わが人生を振り返ると、デザイナーの才
能ふくめ、組織も資金も何もないところ
から始めてきたからこそ、逆に前向きに

歩んでこれたようにも思えるのだ。
バングラデシュ支援のNGO活動も、そ
の全てがボランティアな活動である。参
加してくるメンバーも同様に、彼らと
みる『未来への灯り』だけが共有できる
ものであり、いつの時代も必死で社会活
動への言葉をつないできたように思う。
いまは世界中でNGOの支援活動を見る
ことができる。我々の活動『シャプラニ
ー』市民による海外協力の会』も大きく
成長した組織となった。今日では日本の
なかに社会的弱者や経済的苦境にある
人、戦災に巻き込まれた人びとへのさま
ざまな支援の行動が起こされてきている。
私は生まれ育つたこの豊丘村にいま暮
らしている。母親が高齢となり、一人暮
らしが無理なように思えたのがひとつの
契機となったのだ。母親は昨年の冬
に高齢のうちに人生を閉じた。
横浜でのデザイン会社を閉じると決め
たときには、多くの仲間が集まり歓送し
てくれた。いまでは再び『人生をマイナ
スに賭ける...』そんなチャレンジの人生
がないわ
けではな
いかもし
れないと
思いつつ、
故郷の豊
丘村での
暮らしを
日々楽し
んでいる。



パウルは踊る/木版画=福澤郁文



『豊丘村民話集』より

我が郷土南市場・北市場 福澤源一

わが幼年時代は市場耕地と言われ人家も五〇軒以内だったと思います。南に山王神社、中央に秋葉神社の碑が建立されておりまし

北に三社神社があり、大杉が何本もありましたが、神社合併後、明神橋のピーヤ(橋脚)材料として、青年団員により引き出され使用されました。

住まわれておりました。彼は医者で、郷里に帰郷する節、記念として柱掛けの立派な書幅をいただきまし

に製糸業が福沢製糸(西屋)、片桐製糸(南屋敷)、木下製糸などがありました。自然と各方面より人も

大正十二年頃は北市場第一は五二戸、第二第三(下段)常会はわずかに二四戸でありました。現在北市場第二、第三常会地籍は大半が

こちら資料館 260 県宝申請中の大甕について

かねてより県宝に申請中の旧役場跡から出土した美しい壺と一緒に発掘された土器十二点が、一括県宝に

指定されそうだとのこと。今回はその中の一品、写真の大甕について紹介します。高さ八〇cm、口径三五・五

考えられます。一体こんな大きな物を何のために? 元信州豊南短大の桐原健氏によると「これは万葉集

とが分かる。」とのこと。この大甕はほぼ間違いなく「斎瓮」であるといえます。神に祈る特別な祭祀空間を備えたかなり大きな家、

この住居跡は奈良時代末、平安初期の物と考えられ、既に伴野郷が成立していた時期と重なります。伴野郷との関連が気になります。

私が所属していたスキークラブのスキーツアーにある保育士さんの友だちが参加していた。彼は埼玉大学

「15の夜」(一九八三年発売)は、十代のカリスマと呼ばれる尾崎のデビューシングル。この歌は「盗んだ

歌は世につれ〜 五十一話 生きる規範を見つけない『15の夜』卒業 上佐原 小池 光好



移動図書のご案内 三月の移動図書 三日(火) 伴野勤労者福祉センター 六日(金) 壬生沢福島集落拠点施設

この本は「勉強」という行為を更に深めるにはどうするか、というテーマをドゥールズ&ガタリという精神科医と哲学者の思想家

1月号の訂正 先月号の「2026年新年の抱負」の記事において、お名前の漢字に誤りがありました。

私が所属していたスキークラブのスキーツアーにある保育士さんの友だちが参加していた。彼は埼玉大学

バイク「覚えたての煙草」という歌詞が強調され、注目されがちだが、バイクを盗んだって自由になん

「豊丘村柳クラブ豊柳会」の作品コーナーは、同クラブの活動終了に伴い、連載を終了することとなりました。

論が込められているのだ。もがきや葛藤を抱え、どうしようもない閉塞感から抜け出そうとする思春期の尾崎が両曲で一貫して訴えているのが「自由」。不良な行動をして束の間の自由を感じたとしても本質的な解決にはならない。一時的な自由は感わされず、守るべきルールのもとでもがき葛藤し、自分なりの生きる規範を見つけたものだ。

勉強で既存の自分を破壊するとは? 勉強は知識を増やす行為と捉えていました。自分がどう変わるのか、という所に注目しており、勉強の概念に風穴を空けられたような気分になりました。

松過ぎの座敷静や置き時計 少子化や様変わりせしどんど焼き ハウスの灯消せば寒月吾を射る

私がお読みした「勉強」という行為を更に深めるにはどうするか、というテーマをドゥールズ&ガタリという精神科医と哲学者の思想家

「15の夜」(一九八三年発売)は、十代のカリスマと呼ばれる尾崎のデビューシングル。この歌は「盗んだ

歌は世につれ〜 五十一話 生きる規範を見つけない『15の夜』卒業 上佐原 小池 光好

「豊丘村柳クラブ豊柳会」の作品コーナーは、同クラブの活動終了に伴い、連載を終了することとなりました。

論が込められているのだ。もがきや葛藤を抱え、どうしようもない閉塞感から抜け出そうとする思春期の尾崎が両曲で一貫して訴えているのが「自由」。不良な行動をして束の間の自由を感じたとしても本質的な解決にはならない。一時的な自由は感わされず、守るべきルールのもとでもがき葛藤し、自分なりの生きる規範を見つけたものだ。

勉強で既存の自分を破壊するとは? 勉強は知識を増やす行為と捉えていました。自分がどう変わるのか、という所に注目しており、勉強の概念に風穴を空けられたような気分になりました。

松過ぎの座敷静や置き時計 少子化や様変わりせしどんど焼き ハウスの灯消せば寒月吾を射る

私がお読みした「勉強」という行為を更に深めるにはどうするか、というテーマをドゥールズ&ガタリという精神科医と哲学者の思想家

「15の夜」(一九八三年発売)は、十代のカリスマと呼ばれる尾崎のデビューシングル。この歌は「盗んだ

歌は世につれ〜 五十一話 生きる規範を見つけない『15の夜』卒業 上佐原 小池 光好

「豊丘村柳クラブ豊柳会」の作品コーナーは、同クラブの活動終了に伴い、連載を終了することとなりました。

論が込められているのだ。もがきや葛藤を抱え、どうしようもない閉塞感から抜け出そうとする思春期の尾崎が両曲で一貫して訴えているのが「自由」。不良な行動をして束の間の自由を感じたとしても本質的な解決にはならない。一時的な自由は感わされず、守るべきルールのもとでもがき葛藤し、自分なりの生きる規範を見つけたものだ。



~シリーズ~ 豊丘の自然

No.265

アオスジアゲハ (アゲハチョウ科)



今月はアオスジアゲハを紹介する。写真は筒井寛さん(南信州新聞社写真部)から頂いた。参考にした文献は「下伊那郡昆虫目録(一九二五・大正十四年)」と「長野県産チョウ類動態図鑑(一九九・平成十二年)」。一九二五(大正十四年)には下伊那郡で確認されている。アオスジアゲハで、長野県への土着が確認されたのは一九七二(昭和四十六年)。それまでは、県内各地で確認されていたが、いずれも偏産種であった。

成虫初見。一九九八年四月二十九日阿南町木曾畑(山田拓)

身びいきもあり牡丹獅子が好みという傾向でした。今回遊休農地の再生の経緯や大変さを知りそこから出来た清酒二つを飲み比べできて有意義な学習会でした。

最後に福島区住人としてこれからは牡丹獅子をよろしくお願いします。

次に棚田で作った酒米からできた牡丹獅子の試飲会が始まります。

今回は特別の好意により千代のごね田んぼで作られた「よこね」の清酒を提供頂き豪華な飲み比べができる試飲会となりました。

今回の試飲の清酒は共に酒米のたかね錦で喜久水酒造にお願いしたものです。(作り方の方向性はまったく違います。)

結果として飲み比べた全員が二つの違いがはっきり分かるということでした。

令和八年一月十八日壬生沢地区福島地区の拠点施設で標記の学習会を開催しました。

今回のテーマの知ろうについて講師は福島本村棚田委員会の代表の木下英章さんです。

場所は福島区の本村地区にある福島春日神社の道路を隔てたすぐ下側に位置する谷合の棚田です。(神社の前なので前田というところもあります。)

始まりは、お祭りなどで神社の境内から見たとき前にある田んぼが荒れていて氏子として悲しい思いになったことです。

そんな中、NPO法人「いち」とのテーマが合い村や地区有志との共同プロジェクトとして大きく前に進むこととなります(平成二十四年)。

しかし棚田の再生は一筋縄で行くわけでもなく多くの苦労があります。荒れた

水田は草の根が深く張っており、水田に安定的に水を供給するための池は木なども生えていて撤去には重機が必要大変なプロジェクトとなりました。

そんな中、会員が持ち出しの重機を操作したり多くの住民の有志がボランティア的に協力したり、だいたいの支援や村の協力などもあってプロジェクトが大きく進むこととなります。

事業化の柱は三つで一つ目は酒米を作り豊丘村のお酒をつ



りんご公園で第一分館のやきいも大会がありました。さつまいもとマシユマロを焼きました。マシユマロは焼くのが難しかったので、「直火ならすぐ焼けるでしょ」と思っていたところ、焼いたら真っ黒になりました。表

第1分館 焼芋大会 1月18日(日)

おいしかったやきいも

北小学校4年 昼神 理紗

面が苦かったけど中はおいしかったです。でも火のついていない所だと時間がかりそうです。

次にみんなで遊具おにをしました。遊具の中でやるおにごっこで、保育園の子から中学生までの人と遊びました。公園は改修中なので今の遊具で遊べる最後の日でした。久しぶりのりんご公園で遊べて楽しかったです。

吹き始めたふきのとうは春先の珍味として重宝されています。採集する人物を入れ雰囲気を出してみました。春を印象付けるには絞りになるべく開けて背後をばかすことで、目覚めを表現してみました。伸びきったふきのとうを手前にボケを入れ雪を被った山を配置しています。この植物の咲く場所をさりげなく表現することで臨場感を付加してみました。



なかなか当たらなかったけどみんなでやると楽しかったです。

最後に皆でやきいもを食べました。私は四個食べました。



先月号の「令和7年五大ニュース」で、4位「村内猛暑日50日以上」の記録は、役場に設置された観測機(気象業務法の検定合格品)によるものです。飯田観測所の値とは標高や周囲環境による差異がありますが、正確な観測結果として採用されています。



待ち望んだ春の匂いを感じて

最後の雪が溶け地面では小さな命が萌え始めてきます。春になると真っ先に色を輝かせる黄色の花たち。芽生えはじめは小さな植物です。花になった気持ちは力メラを地面につけるくらいの至近距離で撮影しましょう。

気がつかないうちに芽を

嫌われ者のスギナもつくしが伸びる頃は憎めないものです。地面に寝転んで若草の香りを嗅ぎながら数本にピンと合う位置を探りほとんど開放域にて撮影。明るく表現することで補正

をプラス方向にして、希望を表現してみました。清らかさや清々しさは全体を明るくプラスの方向に露出補正をしましょう。配置は中央よりも幾分左右どちらかに

に寄せ気味にし、控えめに盛り込むのも良いでしょう。絞りは開放域で近付くことにより背景はボケが美しくなってきます。

福寿草も小さな花です。これも地面に横になり撮影しています。花の咲く環境を入れ込

桜の前に咲きはじめる梅の花、しかも紅梅に遅い雪が絡みついた風流な絵柄。まだ寒さのぷり返した印象を表現するには絶好のチャンスとなったことで、望遠レンズにてピンとを伺いながら最接近して撮影。

フォトマスター級 宮下正弘